

市内の物産、技術等を一堂に

「見直そう 活かそう 郷土の資源」をテーマとした第2回北秋田市産業祭が10月27日・28日の2日間、鷹巣体育館を会場に開催され、農・工・商・学全般にわたる展示品の観覧や特産品を買い求める多くの人でにぎわいました。

昨年に引き続き、市全体の地場産業の振興や地域経済の活性化を図るため、市や商工会、JANAなどで作る実行委員会が主催して開催された産業祭は連日多くの人出で賑わいをみせました。

会場の鷹巣体育館には、午前10時の開館と同時に大勢の人が詰め掛け、ステージ前で開会セレモニーが行われました。始めに大会会長の佐藤副市長が、昨年初めて全市一堂に会して開催したところ、大変好評を得た。今年も市内外にアピールできるものがそろった。チェンソーアートなどの協賛行事も多数有り、是非2日間会場に足を運んでいただきたい」とあいさつ。

来賓あいさつの後、「比内地鶏の美味しい街北秋田市」を目指す決意表明式が行われ、岸部市長は、「この郷土に誇るべき比内地鶏をまちおこしに活用し、食の地域ブランドの確立、食を軸にした街づくりに資することを目指し、官民が一体となった活動

を展開したことで市内に25店の比内地鶏を常時提供するまでになった」などと述べながら決意表明を行いました。

館内では、JANA農産物品評会や特産品の販売、市推奨認定特産品紹介、アパレル、木材、珪藻土などの事業者による企業製品の展示や販売、鷹巣農林高校、米内沢高校、鷹巣高校の学校活動の紹介、秋田内陸線や大野台工業団地のPR、鷹巣技術専門校の展示・販売が行われました。ステージでは鷹巣阿仁青年会議所（大森光信理事長）主催の「内陸線フォーラム〜秋田内陸縦貫鉄道の再生で北秋田の活力を取り戻そう〜」と題した存続に向けたトークショーやパネルディスカッションが行われたほか、県無形民俗文化財の郷土芸能「猿倉人形芝居」、地元民謡ショーなどが披露され来場者を楽しませました。

このほか、サブ体育館と屋外のテント村では、び



連日多くの市民でいっぱいとなった産業祭会場



鷹巣農林高校は木炭を原料とした「木酢液」を販売。木液は土の殺菌や微生物の繁殖、家畜のえさに混ぜたり、トイレ・部屋の消臭剤などに多様に使用されます



鷹巣技術専門学校では、御神輿を鷹巣町商工会青年部の依頼で制作。今年の鷹巣神社例大祭でお披露目となった御神輿を展示



職人の技を見せていた鷹巣建設技能組合の技能競技会



格安商品が販売されている「びっくり商業祭」(サブ体育館)



米内沢高校は電子機械科の生徒が製作したエレキギターやラジオンを展示



大きな杉の木を削りオブジェを作るチェンソーアートは見る人を圧倒しました



農畜産物品評会に出品された見事な農産物がズラリと並び、訪れた市民らは質の良さに驚いていました

